

## ▶ Case Study 12

# iPod touchが“鍵”になる未来型カプセルホテル 「The Millennials Shibuya」 株式会社グローバルエージェンツ

https://www.global-agents.co.jp/

### KEY POINT

- ミレニアルズ世代のためにテクノロジーを活用したホテルのイノベーション
- 部屋の設備を動かすリモコンとして iPod touch を宿泊客に貸し出す
- 大量の iPod touch の初期設定を簡略するために QR を活用

## 3つの未来が交差するホテル

2018年3月、東京・渋谷に誕生したのが未来型カプセルホテル「The Millennials 渋谷」だ。テーマは「未来が見える宿泊体験」で、客室単価は6000円前後。2017年に京都で開業した1号店に続く宿泊施設で、2019年7月には福岡に3号店がオープンしている。

カプセルホテルといえば、終電を逃したサラリーマンが一夜を明かすために利用する格安施設を想像する人もいるだろう。しかし、The Millennialsが従来のカプセルホテルのイメージと一線を画すことは、4階のフロントに到着した瞬間にわかる。アーティストックでスタイリッシュな内装、ラウンジのソファでMacBookを開き作業する外国人観光客たち、バルミューダの調理家電で統一されたセルフキッチン。毎日17時30分から1時間はフリービールタイムが設けられている。

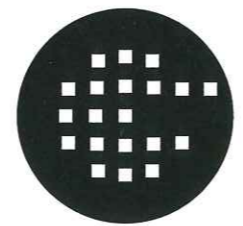
しかし、これらはThe Millennialsが作り出す宿泊体験の側面ではない。このホテルには3つの“未来”が交差している。「コンセプト」「宿泊体験」「バックヤード」への視点からでも、ワクワクする未来を覗くことができるのだ。

## ミレニアル世代の革新

ホテルの名前どおり、コンセプトは未来志向のミレニアル世代が意識されている。

The Millennialsを運営する株式会社グローバルエージェンツ代表取締役社長の山崎剛氏によると、このホテルは「ミレニアル

世代による、ミレニアル世代のための宿泊施設がテーマ」だという。ミレニアル世代（1980年代～90年代後半に生まれた人々）



Global Agents



“Smart Pod”と呼ばれる宿泊ユニット。天井高2.3メートル、床面積3平方メートルの室内に備えつけられているのは、米国シェア1位のSerta(サータ)社製のセミダブルリクライニングベッド。ベッド下にはLL型のスーツケースも開いたまま収納可能な大容量キャビネットがある。



20人の著名アーティストが自由な発想でアートを描いた「アートポッド」が20室用意されている。アーティストのファンだけでなく誰もがワクワクできる仕上がり。

は、若年期にリーマン・ショックや格差問題などの厳しい社会問題のあおりを受けたことから、過去の世代とは異なる価値観や経済観念を持つとされる。また、初めてのデジタルネイティブ世代であり、SNSを通じた共感ベースのコミュニケーションを重視。所有に対する憧れが少なく、モノ消費ではなくコト消費への意識が強いといわれている。

自身も1982年生まれでミレニアル世代だという山崎氏は、利用者のターゲットをインバウンドや宿泊目的で絞るのではなく、あえて世代で区切った。その理由は、消費や所有などの価値観がこの世代を中心に変わってきているからだ。

「私たちは、合理性と自由と多様性を重視する世代です。そこで、この世代の特徴をホテルという場所で体現しました」

合理性の例でいえば、1日1、2回しか使わないシャワーは共用にして、客室をコンパクトに。価格は抑えつつ、共用スペースを施設全体の2割と広く確保することで、

ゆとりある滞在を実現した。また、テクノロジーの進化によって世界中どこでも自由に仕事ができるようになった背景を踏まえ、セルフキッチンやコワーキングスペースを用意。「暮らす」「働く」「遊ぶ」の垣根が曖昧で、働きながら旅をする自由なミレニアル世代のライフスタイルをサポートする。

さらにSNSが浸透した昨今、人々の多様性を許容する考えは、ミレニアル世代を中心にますます広がってきている。そこで、ゲスト同士が交流できるラウンジを設け、国内外から訪れた宿泊客同士が気軽にコミュニケーションを取れるような空間を提供している。

そして、なにより未来志向のミレニアル世代に欠かせないのが、テクノロジーによるイノベーションだ。

「テクノロジーは、合理性と自由度を高めるために不可欠なツール。より快適に、より楽しくワクワクする体験を提供するために、IoTやiPod touchを取り入れています」

## iPod touchでコントロール

The Millennialsにおける宿泊体験の大きな特徴のひとつが、チェックイン時に貸し出される iPod touch (第6世代)だ。独自開発した「Smart Pod」と呼ばれる客室では、この iPod touch 内のアプリを使い、ライトやファンのオン/オフ、リクライニングベッドの角度の調整などができる。特筆すべきは、ライトやリクライニングと連係したアラーム機能だ。起床時刻をアプリで

セットすると、ライトがつき、リクライニングベッドが起き上がることで、静かに起床できるようになっている。スヌーズ機能にも対応しており、1分ごとに少しずつ角度がついていき、10分強で完全にベッドが起き上がる仕組みだ。

カプセルホテルは隣室との距離が近いぶん、生活音をいかに防ぎ快適な滞在を提供するかが重要になる。一般的なカプセルホテルでは、ゲストがスマホのバイブレーションを設定するなどして、音に配慮する必要があるが、IoTを活用したこの方法であれば、音を出すことなくスムーズな起床



仕事をしたいときは、ミーティングルームも設けられたコワーキングスペースを利用できる。「暮らすように泊まり、遊ぶように働き、働きながら旅する」。



セルフキッチン付きのラウンジ。朝食時はキッチンでパンが提供されるほか、コーヒーマーカーも自由に利用できる。